

都立大ボラセン

ー都立大から生まれるボランティア活動ー

Vol. 3



表紙の人

児童文化研究会

特集 1

2022年度ボランティアプログラム

特集 2

学生コーディネーター企画

- 都立大生に聞く！ーいきものサークル！東京ー
- CROSS TALKー私が見つけたボランティアという居場所ー
- サマボラ2022！

学内団体
News

- ・児童文化研究会
- ・東日本きずなプロジェクト
- 人形劇公演（夏公演）
- LINKTopos2022

特集 1

2022年度ボランティアプログラム



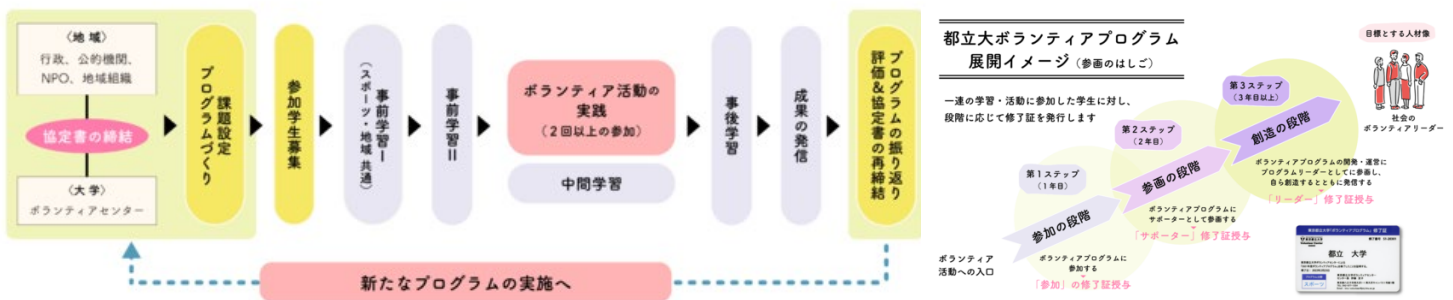
今年も、都立大ボランティアプログラムが始まりました！

2022年度は、3年ぶりに対面授業が全面的に開始され、ボランティアセンターに訪れる学生も増えています。そんな中、「どんなボランティアがあるの？」「活動を始めるっていったもどうしたらいいの？」「ボランティアって始めるのに一歩踏み出すのは少し戸惑いが…」と感じている学生も多く見受けられました。

そこで、学習と連動したボランティアプログラムの出番です。学内のメンバーで構成し、ボランティアセンターが主催となって活動を行うボランティアプログラムに参加することで、学生自身が安心してボランティア活動に参加できる環境を提供するとともに、「ボランティアって何だろう？」を改めて考えてもらい、自主性を大事にしながら、学びや見識を増やし、1年間を通じて活動していく、都立大学オリジナルの学習連動型ボランティア活動です。ボランティアセンターに訪れた学生にも案内を行ったところ、複数名が参加することとなりました。

また、年度を超えての継続した活動も可能となっており、今年は、コロナ禍の活動制限を乗り越え、継続して活動している2年目以降の学生も多く参画しています。プログラムのサポーターやリーダーとして運営の補助を行い、積極的に活動を行う頼もしい姿が見られ、リーダーシップの高い、意欲溢れるメンバーが揃いました。

▼（参考）都立大ボランティアプログラムの大まかな活動の流れと継続参加のイメージ



まずは、事前学習として、ボランティア活動に参加する前の準備を行います。

事前学習 I では、ボランティア活動を多角的に捉え、ボランティアプログラムへの参加目的を考え、ボランティアプログラムのめざすものと参加目的を紐づけ、各参加者がどのように活動していきたいかを明確にします。

事前学習 II では、スポーツボランティアプログラム、地域ボランティアプログラムに分かれ、それぞれの具体的な行動や、活動の目標を立てていき、講師の先生から各プログラムの内容について講義をいただき、理解を深めます。

では、先日開催された、今年度のボランティアプログラム事前学習 I・IIの様子をご紹介します。

■ 事前学習 I (2022.6.25実施)

6月25日（土）、事前学習 I を実施しました。(当日参加者は40名)
講師として、本学の人文社会学部の室田信一准教授をお迎えし、プログラム参加者 1 人 1 人が「ボランティア活動」と向き合い、自分がこれからどのように行動していくか、を見つめなおす時間となりました。

まず、ボランティアの“無償性”について考えた後、「ボランティア活動を始めようと思った動機」を学生同士で共有し、共通点や相違点を探しあい、お互いの動機を考察することで、ボランティアにおける“自発性”を考えました。

次に、ボランティアの“社会性”を考え、お互いの考えを付箋に書き出し、分類していきます。お互いの考えを見て、感じたことや気づきを言葉にしていき、グループで共有しました。この一連の作業を通じ、最後に「ボランティア活動に取り組む自分の宣言」を提言します。ボランティア活動を通じ、本学所在地である「東京」の街と自分がどのようにつながるか考え、各々の宣言を発表しました。学生からは、「今回の受講で、ボランティア活動の動機が明確になった」と大多数が感じており、「他の方の考えに触れたことで自分の考えもまとまった」「責任をもって活動したい」「人や地域と繋がりたい」という意見があがりました。また、プログラムの目的を理解したことで、具体的に活動したい内容を見つけた学生もあり、プログラムの目標と自分の活動の動機が紐づいた様子が多くみられました。



特集 1

2022年度ボランティアプログラム

■ 事前学習Ⅱ：スポーツボランティアプログラム（2022.7.16実施）



7月16日（土）、スポーツボランティアプログラムの参加者に向け、事前学習Ⅱを実施しました。

講師として、本学の健康福祉学部の信太奈美准教授、東京都障害者スポーツ協会の岡林悦子様、日野市社会福祉協議会の宮崎雅也様の3名をお迎えしました。

スポーツ、とりわけ障がい者スポーツの歴史や特性、課題等について理解し、そこにボランティアとして関与する意義や効果を考え、活動開始前に具体的な知識や技術を身につける機会となりました。

スポーツボランティアとは何か、その魅力や、スポーツイベントにおけるボランティアの意義や役割、障がい者の方との接し方（今回は視覚障害を扱いました）について、講師の皆様から講義をいただきました。

学生は真剣に聞き入っており、事後アンケートでは「プログラムではどのように相手と接していけばいいか考える良い機会となった」「障がい者スポーツは障がいの重さで階級分けされているが、健常者のスポーツも体重別、性別で分けているのを知り、"障がい者"と"健常者"を分ける意味がないと分かった」といった意見が見られ、今までとらえていた"スポーツ"に、新たな視点が加わった様子が見受けられました。



また、実際に目隠しをして、サウンドテーブルテニスの体験も行いました。サウンドテーブルテニス（STT）は、音の鳴るピンポン球を、目隠しをした状態で打ち合い、点数を競います。



学生からは「想像以上に不安・大変だった」「衝撃的な体験でした！」「どのようなサポートが必要なのか、改めて考える機会となった」「支える側・支えられる側の経験ができたのがよかった」といった意見が見られ、体験を通じて、より深い学びを得られた様子が伺え、非常に充実した講座となりました。

■ 活動1回目：フロアバレーボール講習会（2022.8.4実施）

今回は、フロアバレーボールの講習会を実施しました。講師として、日本フロアバレーボール協会の方をお招きし、競技そのものやルールを学ぶと共に、競技者の目線で必要な配慮等も体験し、気づきを得る機会となりました。競技体験の際は、アイマスクで視界を遮り、手探りしながら競技に挑む姿が印象的でした。

学生からは「フロアバレーボールの実体験によって、ルールの理解ができた」「体験を通じて競技の楽しさを実感できた」「前衛・後衛のコミュニケーションが競技の醍醐味であると気づいた」といった意見が見られ、体験を通じて、競技の魅力やルールの理解等深い学びを得られた様子が伺え、満足度の高い講習会となりました。



特集 1

2022年度ボランティアプログラム



■ 事前学習Ⅱ：地域ボランティアプログラム（2022.7.23実施）



7月23日（土）、地域ボランティアプログラムの参加者に向け、事前学習Ⅱを実施しました。
講師として、本学理学部生命科学科の加藤英寿助教、ひなた緑地遊学会の北出進様、本法人総務部施設課の大塚敦係長の3名をお迎えしました。松木日向緑地をとりまく地域の歴史や特性、課題等について理解し、そこにボランティアとして関与する意義や効果を考え、活動にあたって持つべき視点や、注目すべき点について考えました。

まず、加藤英寿先生より、「里山とは何か」そして「松木日向緑地が抱える問題」について、これまでの取組の経緯や今後の松木日向緑地の活用における構想等、地域と向き合うことやボランティアの意味について、丁寧に講義をいただきました。

次に、北出様より、「ニュータウン、南大沢地域の急激な変化と課題」や、ひなた緑地遊学会の活動についてお話いただき、地域との関わりについて教えていただくことができました。

最後に、大塚係長より、松木日向緑地を学校として管理する視点から講義をいただき、様々な角度から松木日向緑地を知る機会となりました。学生は真剣に聞き入っており、松木日向緑地を通じて地域の課題に気づき、見識を深めることができたようでした。



後半は、ボランティアプログラム参加2年目のサポーターや、3年以上参画しているリーダーを中心に、講義の内容を受けて、各チームでテーマに沿ってディスカッションやグループワークを行いました。

積極的に意見が出てきており、他の参加者の意見を聞いて納得する様子や、更に新たな意見が出てくる様子等、活発に意見交換する姿が印象的でした。

参加者からは、「かなり具体的に「誰に対し緑地をPRするか」などを考えることができた。」「南大沢が抱える問題について深く学ぶことができた」「竹林に関して今まで以上に関心を持つことができた」「地域の様々な人とボランティアをどうつなげていか考え、その上で最終的に社会課題解決につながる案を考えることができた」といった意見があり、事前学習Ⅱを通じて、地域や、ボランティア活動に対する理解が深まった様子でした。



■ 活動1回目：若竹の伐採（2022.8.6実施）

今回は、南大沢キャンパスの13号館裏を中心に、若竹の伐採を行いました。夏の暑い時期ですが、講師としてご参加いただいた加藤先生から「8月～9月は若竹が成長する時期で、このまま放っておくとまた大きな竹にあつという間に成長してしまう。細くて切りやすい若竹のうちに駆除をすることに大きな意味がある。」と教えていただき、サポーターを中心として伐採を行いました。竹の切り方や鋸の持ち方、注意点など丁寧に伝えており、技術伝承されている点がとても印象的でした。参加者からは、「新たな経験ができた」「竹を一掃することの難しさを感じた」「活動中の定期的な声掛け等を率先して実行したい」という声がかれました。



「いきもの！サークル東京」に聞く！

ボランティアからつながる一歩 -ボランティア経験者が語るここだけの話-

2022年6月9日(木) オンライン開催

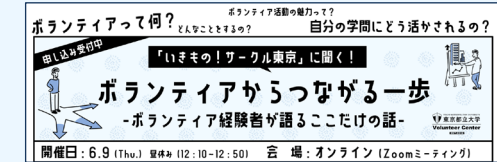
学生コーディネーター企画定番となった「都立大生に聞く！」シリーズ。

学生コーディネーターがファシリテーターとなり、学内のボランティア団体に所属し、ボランティア活動に取り組んでいる都立大生から、活動の内容や魅力、活動を振り返りながら「参加したきっかけ」や「自らの学問にどう活かされているか」について聞いていくインタビュー企画です。

今回は、「いきもの！サークル東京」の沓掛丈さんをゲストにお招きし、本学緑地の開拓・整備活動を中心としたお話を伺いました。ファシリテーターは、河原桜子さん（法学部3年）です。

「いきもの！サークル東京」がどうやってできたのか、谷戸の活用方法の検討、整備を経た田んぼの現状や節足動物への思い等をお話いただきました。ボランティア活動の中で「生き物の多様性」や「田んぼの環境を残す保全活動の重要性」を学んだ、とお話くださいました。参加者からは「本人の言葉で語られた事がとても良かった」、「動物に対する熱意が感じられた」との声があり、満足度の高いイベントとなりました。アーカイブも公開しています。下記URLより是非ご覧ください。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/topics/archive_kiku220609.html



学生コーディネーター企画 特集2

▼「いきもの！サークル東京」の情報はこちら

いきもの！
サークル東京
公式twitter



節足動物園WEB



<https://arthropodzoo.com/>

CROSS TALK

私が見つけたボランティアという居場所

2022年7月15日(金) 南大沢キャンパス 91年館にて開催

「私にとっては一つの居場所かも。みんなはどう？」そんな会話から始まった企画です。

「ボランティアという居場所」をテーマに、学内外でボランティア活動を行う学生達が、語り合いました。

“ボランティア”ってハードルがたかい。それでも、「何かしたい」「一歩踏み出してみたい」そんな方に届いてほしい、そんな思いが形となったイベントです。

登壇者には、関谷駿太さん（法学部4年）、横山水音さん（人文社会学部4年：SCOK所属）、山口 愛さん（都市環境学部3年：東日本きずなプロジェクト所属）の本学学生3名、ゲストスピーカーには、室田信一准教授（東京都立大学人文社会学部）、柚木崎 恵 様（荒川区社会福祉協議会荒川ボランティアセンター）にお越し頂き、様々な角度から“ボランティア”について考えました。

登壇者3名が、まずそれぞれ現在行っているボランティア活動について発表しました。皆さんそれぞれに活動のきっかけがあり、自身の活動を通じて学んだことや、居場所となっている意味について語ってくれました。その後は、学生コーディネーターの安井亮太さん（人文社会学部4年）がファシリテーターとなって座談会を行い、活動継続にあたっての工夫した点や難しい点、コロナ禍で感じた思い、オンラインでの活動に対し感じたこと、活動の原動力について、等、登壇者やゲストスピーカーのお二人より、様々な角度からボランティアに対する思いを引き出してくれ、非常に内容が濃いものでした。登壇者にとっても参加者にとっても、大変満足度の高いイベントとなりました。



参加した皆様の声（一部抜粋）

- 「居場所」は活動そのものである他に、活動をチームで行う事による所属サークル等が拠り所になっているのだと感じた。そしてそれは決して受け身ではなく、自発的な参加があってこそその感覚だと思う。
- ボランティア活動が、ごく当たりまえのこととして生活の中に根差していることが、すばらしいな！と思った。

アーカイブも公開しています。下記URLより是非ご覧ください。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/topics/crosstalk_archive.html



2022年7月28日(木)・29日(金) 開催

本学学生向けのボランティア団体フェア、「サマボラ! 2022」を、南大沢キャンパス講堂大ホール前ロビーにて、2019年以来3年ぶりに開催しました。

「サマボラ! 2022」は、“この夏、一步踏み出したいあなたへ”をテーマに、学内の学生と、学内外のボランティア団体をつなぎ、ボランティア活動の魅力周知や活動内容の普及を行い、夏のボランティア活動の機会を提供するイベントです。

本センターの学生コーディネーターが中心となり、新年度早々から、企画運営や出展団体の声掛け、チラシ等広報の準備、当日の冊子の作成等準備を行いました。

▼学生コーディネーターが作成したWEB用サムネイルやチラシ



2日間にわたり、学内の3団体（SCOK、東日本きずなプロジェクト、グリーンカーテン世話し隊）、学外の8団体（八王子市立愛宕小学校、社会福祉法人荒川区社会福祉協議会、NPO法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）、認定NPO法人JUON（樹恩）NETWORK、東京八王子ビートレインズ、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会（※資料のみ）、スープの会、町田市障がい者青年学級）の皆様に出展いただきました。

2日間合計で56名の来場者にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。各団体の活動に結び付いた学生も複数名おり、参加者の満足度は非常に高いイベントとなりました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました!



【参加者の皆様の声】（一部抜粋）

- 来場して良かった。社会に貢献する活動に思いを感じた。各団体の方々と交流でき新鮮で刺激的な話を聞いた。
- 知らなかった活動を知れて良かった。
この夏ボランティア活動をしてみたい思いが強まった。
- 自分の成長や変化、居場所になるという視点が分かった。
- 今後につながる話を聞くことができた。
- 様々なボランティアの情報を得ることができ、とても有意義であった。
- 参加意志が明確になった。
- 所属しているサークルでボランティア活動が出来たら良いと思った。
- 今回参加し様々な活動が行われていることを知って良かった。

【出展団体の皆様の声】（一部抜粋）

- 実際に興味のある学生がブースに足を運んでくれるので説明などしっかり聞いてくれるが、もっとたくさんの学生に、アプローチできたらよかった。
- 学生と繋がる機会となった。また、様々な活動を行う学生と話をし、学生が活動を行なう上で感じていることや活動への思いを聞くことができた。
- オンラインメインの活動の中、サマボラに参加することでメンバーと直接会ってコミュニケーションがとれたことも、嬉しかった。
- 両日とも学生と話せて、とても楽しい時間だった。
- 学生によっては夏休み期間中のみボランティアをやりたいという方もいたので、オフシーズンにも参加してもらえるような活動も考えたいと思った。



児童文化研究会 人形劇公演（8月）

2022年8月27日（土）、光明第八保育園にて、児童文化研究会（通称：じゃりけん）による人形劇の公演が開催され、多くの子供たちと保護者の皆様にご参加いただき、盛況のうちに閉幕しました。
今回は、じゃりけんの皆様に、本公演を振り返っていただきます。

1. 今回の演目制作に至るきっかけや経緯など、教えてください。



【ギャオスターの夢】

まず「個性を尊重する」というテーマで、お話を書くことを決めました。そして「格好良さや可愛らしさ等の在り方は、他人が押し付けるのではなく、自ら選んで良いものである」という考えを軸に、ストーリーを組み立てていきました。また選択した在り方をみんなで応援する世界観を目指したため、邪魔をする完全な悪役を出すことは避けました。さらに子供たちに受け入れてもらえそうな「主人公とモンスターのバディもの」という形にする等、調整を重ねていき『ギャオスターの夢』は完成しました。

【野菜ぎらいのあやちゃん】

きっかけは劇練習中の合間に、練習の一環として人形を使って寸劇をしていたところ、面白いアイデアが見つかったのでそれを元にした感じです。アイデアから色々と想像をふくらませ、教訓的メッセージも込めて、小さい子でもわかりやすいようにと工夫して練りに練って脚本は出来ました。全ての脚本がこのように作られている訳ではありませんが、今回の場合はこのように時間をかけてより深く深くと思考を凝らして書き上げました。

2. 公演実施に至るまで、一番苦労したことは何ですか？



今回の公演で1番苦労したことはコロナウイルスの影響があり、人がなかなか集まらなかったことです。例年はチラシを手渡しで子供たちに配っていたのですが、今年はそのような宣伝ができず、当日まで子供たちが来てくれるか不安でした。結果的には光明第八保育園さんのご協力もあり、たくさんの子供たちに見に来ていただけたので嬉しかったです。

3. 今回の公演を終えての感想をお聞かせください。

【ギャオスターの夢】

本番を迎えるまでは、子供たちがどれくらい楽しんでくれるのか、どれくらい反応をしてくれるのかについて、不安を覚えていました。なぜなら、コロナ禍の影響もあり、対面での劇を行う機会が例年よりも少なく、お客さんが見る劇の具体的な想像をすることが難しかったからです。しかしそのような心配は杞憂でした。子供たちは劇中の台詞に返事をしてくれたり、休憩時間のゲームにも笑顔で参加してくれたため、とても嬉しく思いました。自分の目で実際に子供たちの反応を見ることで、次は今回よりも楽しんでもらえるような劇を作ろうと、モチベーションがより一層上がりました。

【野菜ぎらいのあやちゃん】

今回の公演は、演出として初めての公演であり、不慣れな部分も多かったですが、自分の思うような劇を完成することは出来たと思いました。しかし、これ以上のものを作ることも可能であり、あくまで「自己ベスト」と「最高傑作」は別物であると痛感しました。今後大学祭公演のような大きな舞台を控えているので、今回の反省点を踏まえて次の舞台を作る時の参考にし、より多くの人に最高の劇だと認めてもらえるような劇を作る為により一層力を入れようと思いました。

4. じゃりけんさんにとって、ボランティアとはなんでしょう？

じゃりけんにとってボランティアは活動に必要な大きなモチベーションの一つとなっています。部員が持つ、公演などを通して子供たちに楽しんでもらいたいという想いが活動の意欲であり、子供たちを中心とした地域の方々に楽しい人形劇を提供することは長く続いているこのサークルの存在意義でもあります。ボランティアをすることで地域の方と繋がり、普段の生活では得られない学びもあるので、これからも人形劇や子供に向けたボランティア活動を行っていきたいです。



学内団体 News



東日本きずなプロジェクト LINKtopos2022

2022年8月31日（水）～9月2日（金）、京都府福知山にて、全国公立大学学生大会（LINKtopos）が開催されました。今年度のテーマは「ReStart」。本学からは、東日本きずなプロジェクトに所属する4名が参加しました。

1. LINKtopos2022参加に対して期待したことは何ですか？

今回のLINKtoposは久しぶりの対面開催ということで、全国の大学生と直接交流し、意見交換や情報交換をすることが、最も大きな目的でした。LINKtoposに参加している団体は、地域や活動の分野が様々です。防災・災害復興系の団体はもちろん、普段のきずなの活動では関わることの少ない他分野の団体の活動を知ることができる貴重な機会であるため、今後のきずなの活動に生かせるよう、様々な情報や知見を持ち帰りたいと考えていました。また、ワークショップについては、普段なかなか他の人と話す機会が少ない話題について、深く考え、議論する良いきっかけになることを期待しました。



2. ポスターセッションの準備で意識したこと、工夫したこと、苦労したことは何ですか？

準備で意識したことは、掲載する内容の取捨選択です。書きたいことが色々ありましたが、全ては書けないですし、文字が多すぎると見づらくなってしまいますので、各項目で何を書いて何を書かないかを意識しました。工夫したことは、オンラインでの作成でしたが、zoomを開き、話し合いながら進めたことです。これによって自分が忘れていたことも、他の人が覚えていたり、皆で過去の情報を探したりして、これまでの活動の振り返りも兼ねることが出来たと思います。苦労したのはレイアウトです。文字が多くなってしまい、見づらくなったので、文字を全体的に大きくしたり、写真を入れたり、背景の色を工夫して、なるべく視覚的な抵抗感をなくそうと努力しました。



3. LINKtopos2022に参加した感想を教えてください。

今年度のLINKtoposは久々の対面での開催となり、全国の公立大学生と直に交流する機会が設けられ大変貴重な経験となりました。大学も違えば専攻している学問分野も異なるため、多くの学びを得ることができ自身の知見を広げることができました。ゲストスピーカー講演では豊岡市の若者にむけた政策について聴き、様々な考え方に触れることができました。ワーク・ショップでは四つのグループに分かれ災害や未来志向な内容のものに取り組み、初対面の他大学の人と一緒に活動したり意見交換したりするということがとても新鮮で自分では考えつかなかったこと発見することができ、とても充実した時間になりました。今後もこの公立大学のつながりを大切にしていきたいと思いました。



4. 東日本きずなプロジェクトにとって、ボランティアとはなんでしょうか？

当団体にとってボランティアとは、東北について知ること、それを後輩へ継続させていくことです。実は私達はゴミ拾いなど、一般的なボランティア活動は行っていません。ハード面で支援するのではなく、自分たちが主体となり、積極的に震災や東北の魅力について学ぶことを活動方針としています。私たちの活動が、何かしら東北の役に立つことを願って様々なイベントに参加しています。当団体は発足から10年が経ち、その時々メンバーに合わせて活動内容を柔軟に変化させてきました。また近年、新入生の入団理由が多様化しており「東北に触れてみたい」などのカジュアルな理由から入団してくれる人もいます。震災から時が経つにつれ、今後更にこうした新入生が増えるでしょうし、それがダメなことだとも思いません。むしろ、ほんの少しだけ東北に関心がある大学生が、団体に所属することで震災について知り、東北を好きになれば、東日本きずなプロジェクトは十分に存在価値がある団体だと感じます。

5. 東日本きずなプロジェクトのPRをどうぞ！

東日本きずなプロジェクトの最も魅力的な活動は、対象地域の東北に行って自分たちで学習と魅力発見ができることだと思います。当団体の活動はコロナ禍で以前と大きく変わり、現地に行けなくなってしまったことで一度は団体収束の危機を迎えました。しかし、続けていけばいつかまた東北を訪れることができると信じ、オンラインの活用など、工夫をしながら活動を続けてきました。メンバーも増えました。これまでメンバー間の「きずな」を繋ぎ止めてこられたことをとても嬉しく思います。徐々に東北に行ける機会も増えてきました。これからも柔軟な姿勢を忘れず、さまざまな活動に挑んでいきますので、ぜひ私たちの活動に注目していただくと嬉しいです！

01. 【学内向け】11月26日(土) 南大沢キャンパスにて開催！ ボランティアコーディネーション力3級検定の受験者募集中！



今年も、東京都立大学内にて、ボランティアコーディネーション力3級検定を実施します。
「ボランティアコーディネーション力」は、ボランティア活動を行う上で、多様な人とのつながりや調整のため、市民社会づくりに参加するためにとても重要なスキルとなっています。ボランティア活動経験のある方は、培った力を是非形にしてみませんか？

要項・申込はこちら



詳しくは、下記URLまたは右記QRコードより受験に関する要項をご覧ください。沢山のお申込、お待ちしております。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/topics/info_kentei_2022.html



東京都立大学ボランティアセンターのボランティアプログラムに参加している学生や、本センターでの学内団体登録済の団体に所属している学生は、**受験料の補助がでます。**

02. 【学内向け】10月5日(水) から学生コーディネーター(後期)を募集します！



都立大のボランティア活動をともに盛り上げていただく、“学生コーディネーター”を募集します。学生の立場から学生と地域をつなぎ、学内でのボランティア活動の啓発と支援を行ってみませんか？

学生コーディネーターって具体的にどんな活動をするの？と気になった方、詳しくは、下記URLまたは右記QRコードより募集要項をご覧ください。ご応募お待ちしております。

▶ https://volunteer.tmu.ac.jp/topics/2022_kokicoboshu.html

要項・申込はこちら



03. 【学内向け：予告】11月19日(土) ファシリテーション講座 (Vol.3) を今年も開催します！是非参加してみませんか？

今年も、ファシリテーション講座 (Vol.3) を開催します！「ファシリテーション」とは、コミュニケーション技法の1つで、円滑な議論や人間関係に役立ちます。**今回は南大沢キャンパス内にて、対面で実施します！**30名程を対象とし、実践を交えながら楽しく学んでいきます。詳しくは、後日東京都立大学ボランティアセンターのサイトにてお知らせしますので楽しみに！

【表紙の人】

東京都立大学
児童文化研究会

【児童文化研究会(じゃりけん)よりお知らせ】

児童文化研究会では年間で4回程度、地域の子供たちに向けた人形劇を行っています。8月には夏公演を行いました。今後**11月には南大沢キャンパスで大学祭公演、12月中旬には冬公演、3月に春公演を行う予定**です。大学祭では例年たくさんの子供たちに公演にお越しいただき、人形劇を楽しんでいただいております。大学祭期間中は全日、午前と午後の2回ずつ公演を行っていますので、ぜひご参加ください！
また、今後は大学祭だけでなく、春公演などでも地域の方に向けた公演を行っています。どの公演でも楽しく、可愛らしい人形劇をお届けしますので、たくさんの方に来ていただくと嬉しいです！今後とも児童文化研究会をどうぞよろしくお願いします。

最新情報は
こちらから
check!

twitter



WEBサイト

東京都立大学・首都大学東京
児童文化研究会

Tokyo Metropolitan University a children culture study circle

<http://tmujari.web.fc2.com/>